

自然教室だより

3月・春のならやま自然観察会報告

辻本信一

平成29年3月8日(水)今年2度目となる「ならやま」での自然観察会を実施いたしました。

天候にも恵まれ爽やかな朝を迎えましたが、まだ少し肌寒さが残ります。そのせいか参加者は10名丁度。ならやまの自然をこよなく愛する人たちが集まってくれました。



【観察会参加の皆さん】

定刻の10時観察会開始。ベースキャンプ周辺からサイクリングロード南側の梅林にかけ、競い合っ咲く早春の草花を図鑑片手にジックリと観察していきました。決して広い範囲ではありませんが、それでも出会った草花は軽く40種を超え、改めて里山の植生の豊かさを感じました。



【図鑑片手に野草の観察】

ここにその一部を紹介させていただきます。

ナズナ、ホトケノザ、カキドオシ、スズメノエンドウ、オオイヌノフグリ、コハコベ、オランダミミナグサ、ウラジロチチコグサ、



【ミドリハコベとタネツケバナ】



【ホトケノザ】

オニノゲシ、キュウリグサ、オニタビラコ、コオニタビラコ、ヨモギ、ムラサキケマン、セリ、ギシギシ、スイバ、ヤマミツバ、セイヨウタンポポ、

イヌムギ、ヒメオドリコソウ、ハルジオン、タネツケバナ、オオバコ、ゲンノショウコ、ミドリハコベ、アメリカフウロ、スズメノカタビラ、ヤエムグラ、ツメクサ、ウシハコベ、チチコグサモドキ、ナガミヒナゲシ等々。

厳しい冬の季節はロゼットの姿で頑張ってきた草花も春の気配を感じ、徐々に本来の姿を取り戻していきます。一つ一つの草花をルーペで覗くと完璧なまでに整ったその姿・形・色合いに言葉では言い尽くせない感動を覚えます。

ひとしきり野草の可憐な姿を鑑賞した後、昼食を挟み昼からは、里山林内を散策しました。



【里山内散策】

残念ながら、近年の暖冬を見越し予想をしていた「コバノミツバツツジ」の開花は見られませんが、ここでひとつの大発見がありました。

散策中に見慣れない葉を付けた幼木を発見。それも1本だけでなく散策路沿いに数本。ブナ科の植物に間違いなさそうなその葉にはどこか見覚えがあったのですが、なかなかそれが何か思い出せません。参加者のひよっとしての一言で、それが「シリブカガシ」だと分かりました。決め手は倒卵形で葉の裏はやや金色を帯び側脈の対の数7つ前後、葉元の形状もくさび形でズバリです。



【里山で見つけた葉】



【シリブカガシ】

シリブカガシと言えば深い光沢のあるドングリで筆者自身一番好きなドングリですが、今まで「ならやま」には無いと決めつけておりました。今回の出会いですごく幸せな気分になりました。この木が無事に大きく育ち美しい光沢の見事なドングリを付けることを今から楽しみにしています。このような大発見もある「ならやま」での自然観察会に次回は是非多くの皆さまもご参加ください。